

真空管オーディオフェア 音のサロン報告

日本オーディオ協会 音のサロン委員会

委員長 今 裕実

概要： 真空管オーディオフェアにおいて、音のサロン委員会は試聴プログラムを開催しました。その概要を報告します。

ABSTRACT: At the Vacuum Tube Audio Fair, the “Audio Salon Committee” held a listening programs.

This is a report of the program.

1. はじめに

音のサロン委員会は真空管オーディオフェアで、試聴講演を開催しました。真空管オーディオフェアを主催する真空管オーディオ協議会との間では、以前から交換プログラムを実施し、真空管オーディオフェアでは音のサロン委員会が、OTOTEN では真空管オーディオ協議会がそれぞれ試聴イベントを行ってきました。今回もその一環としての開催です。

日時：2019年10月14日（月・祝）10:30～12:00

会場：損保会館 502号室

タイトル：名盤を話題のアンプで聴く

説明・進行：今 裕実

2. 詳細

今回は「名盤を話題のアンプで聴く」と題して、4社のアンプを試聴しました。音源のSACD/CDプレーヤーとスピーカーは試聴のレファレンス機材として固定し、アンプを順次差し換える形としました。





アンプは、トライオード、デノン、ヤマハ、CS ポートの 4 社を用意しました。真空管アンプが 2 社、ソリッドステートアンプが 2 社という構成です。また、プリメインアンプが 2 社、セパレートアンプが 2 社という内容です。試聴の順番は価格順でトライオードからスタートし、最後が CS ポートの順です。試聴の前に各モデルの特長を簡単に説明し、次いで試聴という流れで進めました。

TRIODE

プリメインアンプ MUSASHI (580,000円)

- ・KT150AB級プッシュプルで100W+100W
- ・大型トロイダルトランス&S&Cショットキーバリアダイオードによる強力電源
- ・メーターで確認しながら簡単にバイアス調整が可能
- ・MAIN IN入力を備えステレオパワーアンプとして使用可能

DENON

プリメインアンプ PMA-SX1 LIMITED (700,000円)

- ・Denonのサウンドポリシー "Vivid & Spacious"を体現するフラッグシップモデル
- ・37種に及ぶカスタムコンデンサー
- ・A7075 (超々ジュラルミン) による新開発トップカバー&フット
- ・全段バランスアンプ構成

YAMAHA

プリアンプC-5000 (900,000円)

- ・全段バランス増幅、フローティング&バランス方式採用のオーディオ回路
- ・信号経路の究極的純化を目指したブックマッチコンストラクション
- ・理想的な左右独立、左右等長給電を実現する独自のシャーシレイアウト

パワーアンプM-5000 (900,000円)

- ・"機械的な接地"に着目したメカニカルグラウンド・コンセプト
- ・パラレルMOS-FET出力段装備のフローティング&バランス・パワーアンプ
- ・圧倒的な音のスケールを支える大容量トロイダル電源トランス

CS Port

プリアンプC3PR (1,500,000円)

- ・高信頼管C3₂採用プリアンプ
- ・無帰還低歪最適化二段構成
- ・入出力に最高性能トランス使用
- ・卓越したノイズ処理技術
- ・抵抗切替ラダー型、定インピーダンスアッテネータ

パワーアンプGM70PA (1,700,000円)

- ・直熱三極管GM70採用ステレオパワーアンプ
- ・無帰還低歪最適化二段構成A級シングル
- ・卓越したノイズ処理技術
- ・プレート電圧1,050V電源替換
- ・Normal、Dual Mono、Bridge mode切替

名盤として用意した音源は、昨年から今年にかけてユニバーサルミュージックジャパンとワーナーミュージックジャパンから発売された MQA-CD による名盤シリーズ、名盤コレクションからすべての曲を選曲しました。



試聴はそれぞれのアンプで5曲ずつとし、その内3曲は聴き比べがしやすいよう共通の曲としました。各アンプで最初にジャズ、女性ボーカル、バイオリン協奏曲の3曲を共通曲として聴いていただき、残りの2曲は、往年のポップス、ロック、イージーリスニングなど様々なジャンルの曲を再生しました。

3. 会場の様子

台風が通り過ぎたばかりの午前中の開催でしたが、開始前から用意された約70席は埋まり、更に立ち見のお客様もあり、多くの方々に参加いただきました。真空管アンプとソリッドステートアンプの音の違いや、それぞれのアンプが持つ音の魅力を楽しく聴いていただけたと思います。



4. 最後に

定例となっている真空管オーディオフェアでの音のサロンですが、今回は台風の通過もあり実施が危ぶまれましたが、無事開催でき、たくさんの方々に来場して頂きました。また委員会の関係者の方々には、事前準備から現場での運営まで様々なご支援をいただきました。この場をお借りし御礼申し上げます。次回は、2020年のOTOTENになるかと思いますが、音のサロン委員会として魅力あるプログラムを準備したいと考えています。

執筆者プロフィール

今 裕実 (こん ひろみ)

1958年生まれ。九州芸術工科大学音響設計学科卒。大手音響メーカーで長年オーディオ製品の企画業務に従事。現在は株式会社トライオード勤務。